

「江戸吉原」の約250年にわたる文化・芸術を学術的に検証
仕掛けられた虚構の世界を約250件の作品で紹介する

大吉原展 江戸アメイチンク

Yoshiwara: The Glamorous Culture of Edo's Party Zone

来春、桜満開の上野に江戸吉原の美が集結！

会期:2024年3月26日(火)~5月19日(日)

会場:東京藝術大学大学美術館

東京藝術大学大学美術館（台東区・上野公園）では、「大吉原展 江戸アメイチンク」（主催：東京藝術大学、東京新聞、テレビ朝日）を2024年3月26日（火）～5月19日（日）まで開催いたします。

約10万平方メートルもの広大な敷地に約250年もの長きに渡り続いた幕府公認の遊郭 江戸の吉原は、他の遊郭とは一線を画す、公界としての格式と伝統を備えた場所でした。武士であっても刀を預けるしきたりを持ち、洗練された教養や鍛え抜かれた芸事で客をもてなし、夜桜や俄など季節ごとに町をあげて催事を行いました。約250年続いた江戸吉原は、常に文化発信の中心地でもあったのです。3月にだけ桜を植えるなど、贅沢に非日常が演出され仕掛けられた虚構の世界だったからこそ、多くの江戸庶民に親しまれ、地方から江戸に来た人たちが吉原見物に訪れました。そうした吉原への期待と驚きは多くの浮世絵師たちによって描かれ、蔦屋重三郎(つたやじゅうざぶろう)らの出版人、文化人たちが吉原を舞台に活躍しました。

江戸の吉原遊郭は現代では存在せず、今後も出現することはありません。本展では、今や失われた吉原遊郭における江戸の文化と芸術について、ワズワース・アテネウム美術館や大英博物館からの里帰り作品を含む国内外の名品の数々で、歴史的に検証し、その全貌に迫ります。



喜多川歌麿《吉原の花》寛政5年(1793)頃 ワズワース・アテネウム美術館
Wadsworth Atheneum Museum of Art, Hartford.
The Ella Gallup Sumner and Mary Catlin Sumner Collection Fund

本展構成

本展は三部構成となります。

第一部では、厳選した浮世絵作品を用いて吉原の文化、しきたり、生活などを映像を交えてわかりやすく解説し、導入とします。

第二部では、菱川師宣(ひしかわもろのぶ)、英一蝶(はなぶさいっちょう)、喜多川歌麿(きたがわうたまろ)、鳥文斎栄之(ちょうぶんさいえいし)、酒井抱一(さかいほういつ)らが描いた風俗画や美人画を紹介しながら江戸時代の変遷を辿り、高橋由一の《花魁》(1872年)を経て変容していく近代の様相までを通覧します。

第三部では、吉原の五丁町を歩いているように感じられる展示室全体の演出を試みます。浮世絵を中心に工芸品や模型も交えてテーマごとに作品を展示し、季節ごとの年中行事をめくりながら、客の作法や遊女のファッション、芸者たちの芸能活動を知ることができます。

「大吉原展」開催について

本展は、近代日本美術の原点に位置づけられる高橋由一の《花魁》(1872年)から着想されました。由一が依頼に応じて描き残そうとした〈廃れゆく花魁の姿〉とは何を意味していたのか――。

その答えは江戸時代の吉原遊郭そのものであったように思います。遡れば寛政期には蔦屋重三郎や大田南畝らの文化人ネットワークが紡ぎ出した知的な遊びの文化がありました。また、近代になって鏑木清方が酒井抱一を慕い樋口一葉の『たけくらべ』を愛読したことに感じ取れる江戸情緒への憧憬は、吉原が育んだ世界と切り離すことができません。そこには四季の移ろいと共に生きた江戸の人々の美意識がありました。

近代が切り捨てていったものを、そのままに捉え直してみたいという気持ちから、私はこの展覧会を企画しました。遊郭は現在の社会通念からは許されざる制度であり、すでに完全に過去のものとなっています。それゆえに失われた廓内でのしきたりや年中行事などを、優れた美術作品を通じて再検証したいと思います。

古田亮(東京藝術大学 大学美術館教授、美術学部近現代美術史・大学史研究センター長)

本展のみどころ

■約250年もの間続いた江戸吉原の歴史・文化を学術的に検証

菱川師宣、英一蝶、喜多川歌麿、鳥文斎栄之、歌川国貞、葛飾北斎、酒井抱一、高橋由一、鏑木清方らの作品が一堂に！

様々な絵師たちが描いた風俗画や美人画を紹介しながら江戸時代の変遷を辿り、高橋由一の《花魁》を経て変容していく近代の様相までを通覧します。

なお、東京藝術大学大学美術館が所蔵する重要文化財《花魁》は現在修復作業中。本展では、修復後、初の展示となります。



高橋由一《花魁》 明治5年(1872)
東京藝術大学

■実は江戸文化の発祥地！吉原の洗練された文化と独特の風習を紹介！

鳥居清長、葛飾北斎、歌川広重など、厳選した浮世絵などから、遊女たちの教養やファッション、しきたりや独自の風習を紹介します。



歌川国貞《美人合 俄》文政（1818-30）末期
山口県立萩美術館・浦上記念館

■展示室で町並みを再現！年中行事やランドマークで吉原訪問

圧巻！3メートル四方の巨大ミニチュアワールド「三浦屋」と辻村寿三郎の江戸風俗人形を展示

展示室全体を吉原の町に見立て、大門、高札、桜、常燈明、見返り柳など、当時のランドマークをめぐることで、吉原の町の疑似体験が可能になります。また、辻村寿三郎の江戸風俗人形が並ぶ吉原の妓楼「三浦屋」の3メートル四方の立体模型も必見です。



人形・辻村寿三郎、建物・三浦宏、小物細工・服部一郎
《江戸風俗人形》昭和56年（1981）台東区立下町風俗資料館
撮影：石崎幸治、写真提供：三浦佳子

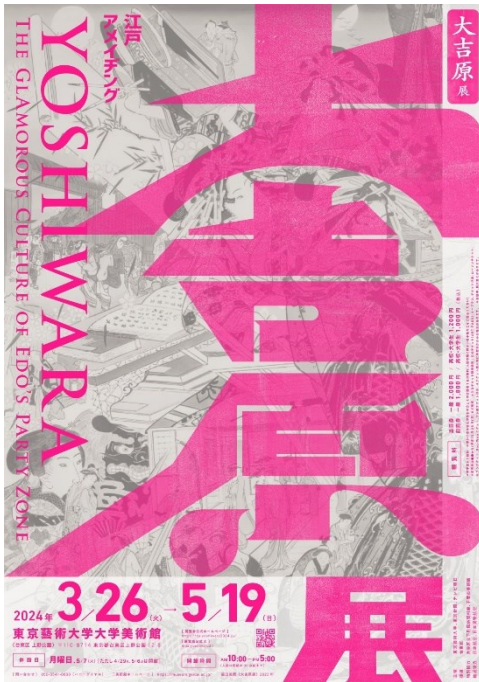
■ワズワース・アテネウム美術館や大英博物館の名品の数々が里帰り！

ワズワース・アテネウム美術館から日本に里帰りする喜多川歌麿の《吉原の花》のほか、大英博物館が所蔵する喜多川歌麿、歌川国貞、鳥文斎栄之、鳥居清長、勝川春潮らの名作の数々を展示します。



勝川春潮《吉原仲の町図》天明後期-寛政前期（c.1785-1795）大英博物館
©The Trustees of the British Museum.

メインビジュアルは福田美蘭さんの描きおろし《大吉原展》！会場では完全版を展示予定！



本展のメインビジュアルに使われている作品は、現代美術作家・福田美蘭さんの描きおろしである《大吉原展》。本展に出品される作品の数々をモチーフに、花魁や吉原の町並みがモノクロで描かれています。

また会場では、このメインビジュアルをもとに、福田さんがさらに色付けを施した《大吉原展》の完成版を展示予定です！

福田美蘭さん プロフィール

現代美術作家。1963年東京生まれ。東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒、同大学院美術研究科修士課程修了。1989年、第32回安井賞を最年少で受賞。西洋近代美術や日本美術、広告など身近なイメージの既成概念に対して問題提起し、新しいものの見方を提示する作品を国内外で発表している。

【開催概要】

大吉原展 江戸アメイジング

Yoshiwara: The Glamorous Culture of Edo's Party Zone

会 期：2024年3月26日（火）～5月19日（日）

会 場：東京藝術大学大学美術館（台東区・上野公園）

開館時間：午前10時～午後5時（入館は閉館の30分前まで）

休 館 日：月曜日（ただし4月29日（月）、5月6日（月）は開館）、5月7日（火）

主 催：東京藝術大学、東京新聞、テレビ朝日

後 援：台東区

特別協力：台東区立下町風俗資料館、千葉市美術館

輸送協力：日本航空、日本貨物航空

特設サイト：<https://daiyoshiwara2024.jp/>

問合せ先：050-5541-8600（ハローダイヤル）

※詳細なプレスリリースは、1月中にあらためてご案内いたします。

報道関係の方からの本件に関するお問い合わせ先

「大吉原展」広報事務局（ユース・プランニング センター内） 担当：鈴木、大山、池袋

〒150-8551 東京都渋谷区桜丘町9-8 KN渋谷3ビル4階

電話番号: 03-6821-9100 E-mail: daiyoshiwara2024@ypcpr.com



広報画像 1

1-1 喜多川歌麿《吉原の花》

1-2 喜多川歌麿《吉原の花》（部分）

寛政5年（1793）頃 ワズワース・アテネウム美術館
Wadsworth Atheneum Museum of Art, Hartford.
The Ella Gallup Sumner and Mary Catlin Sumner Collection Fund

広報画像 2

本展ポスター画像



広報画像 3

勝川春潮《吉原仲の町図》 天明後期-寛政前期 (c.1785-1795) 大英博物館
©The Trustees of the British Museum.



広報画像 4

歌川国貞《美人合 俄》 文政（1818-30）末期
山口県立萩美術館・浦上記念館



広報画像 5

高橋由一《花魁》 明治5年（1872） 東京藝術大学



広報画像 6

人形・辻村寿三郎、建物・三浦宏、小物細工・服部一郎
《江戸風俗人形》昭和56年（1981）台東区立下町風俗資料館
撮影：石崎幸治、写真提供：三浦佳子

「大吉原展」広報事務局行

FAX：03-6821-8869

E-mail：daiyoshiwara2024@ypcpr.com

画像をご掲載の際には、必要事項を記入の上、E-mailでお申し込みください。JPEGデータにてご提供いたします。下記クレジット表記、注意事項を順守いただきますよう、お願いいたします。

- 画像の使用可能期間は本展会期終了までとなります。
- 本展広報目的での使用に限ります。画像使用後は、データの破棄をお願いいたします。
- 本展会期中であっても、再放送や転載をされる場合はその都度申請くださいますようお願いいたします。
- 展覧会名、会期、会場名、作品名・作者ほか画像クレジット(下記リスト参照)を必ず掲載してください。
- 作品画像は全図でご使用ください。トリミング、文字乗せ、切り抜きなどの画像の加工・部分での使用はできません。
- WEBサイトに掲載する場合は、コピーガードを施してください。コピーガード対応が出来ない場合には、別画像をご用意しております。申請書にチェックのうえご提出願います。また、本展終了後は画像の削除をお願いいたします。
- 基本情報と画像の確認のため、グラ刷り・原稿の段階で広報事務局までお送りいただきますようお願いいたします。
- 掲載・放送後は必ず、掲載誌・同録テープを、本展広報事務局へ1部お送りくださいますようお願いいたします。

■広報画像(ご希望の画像にチェックを入れてください。)

✓	No.	【ご掲載時に必要なクレジット表記】
<input type="checkbox"/>	1-1	喜多川歌麿《吉原の花》寛政5年(1793)頃 ワズワース・アテネウム美術館 Wadsworth Atheneum Museum of Art, Hartford. The Ella Gallup Sumner and Mary Catlin Sumner Collection Fund
<input type="checkbox"/>	1-2	喜多川歌麿《吉原の花》(部分) 寛政5年(1793)頃 ワズワース・アテネウム美術館 Wadsworth Atheneum Museum of Art, Hartford. The Ella Gallup Sumner and Mary Catlin Sumner Collection Fund
<input type="checkbox"/>	2	本展ポスター画像
<input type="checkbox"/>	3	勝川春潮《吉原仲の町図》天明後期-寛政前期(c.1785-1795) 大英博物館 ©The Trustees of the British Museum.
<input type="checkbox"/>	4	歌川国貞《美人合 俄》文政(1818-30)末期 山口県立萩美術館・浦上記念館
<input type="checkbox"/>	5	高橋由一《花魁》明治5年(1872) 東京藝術大学
<input type="checkbox"/>	6	人形・辻村寿三郎、建物・三浦宏、小物細工・服部一郎《江戸風俗人形》昭和56年(1981) 台東区立下町風俗資料館 撮影：石崎幸治、写真提供：三浦佳子

- 貴媒体について 下欄にご記入いただいた個人情報は、本展覧会広報用写真貸出の目的にのみ使用し、それ以外の用途には使用しません。

貴社名：			
媒体名：	掲載コーナー、特集名()		
※WEB掲載を予定している場合はチェックをお願いします	コピーガード対応	可	・ 不可
掲載月号：	月	日	発売 ()号 / 発行部数 部
ご担当者名：	E-mail：		
連絡先：	電話：	FAX：	
チケット希望：	読者プレゼントとして5組10名分を <input type="checkbox"/> 希望する <input type="checkbox"/> 希望しない		
読者プレゼント送付先：	〒		

報道関係の方からの本件に関するお問い合わせ先
「大吉原展」広報事務局(ユース・プランニングセンター内) 担当：鈴木、大山、池袋
〒150-8551 東京都渋谷区桜丘町9-8 KN渋谷3ビル4階
電話番号：03-6821-9100 E-mail: daiyoshiwara2024@ypcpr.com